

令和6年度 第2回瑞浪市廃棄物減量等推進審議会 会議録

■日 時：令和6年10月30日（木） 午後2時00分 開会
午後3時30分 閉会

■場 所：保健センター3階大会議室

■日 程

1 会長あいさつ

2 議事

（1） アンケート実施結果について・・・・・・資料1-1、1-2

（2） 瑞浪市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて・・・・・・資料2

（3） 取組内容の見直しについて・・・・・・資料3

3 その他

■出席者

安藤 昇 委員（会長） 加藤 栄子 委員 栗岡 洋美 委員
安藤 香織 委員 大島 貴文 委員 松崎 英之 委員 渡邊 ミズカ 委員

■欠席者

岸本 卓也 委員 松田 真太朗 委員

■事務局

鈴木 創造（理事兼経済部長） 渡辺 芳夫（経済部次長兼環境課長）
三浦 正二郎（クリーンセンター所長）
青山 哲也（環境課長補佐兼廃棄物対策係長） 大山 将平（環境課廃棄物対策係）
水野 洋輔（日本工営都市空間株）

○事務局は、瑞浪市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則第2条第5項の規定による会議の成立の宣言を行った。

○会長あいさつの後、本日の議事3件について、資料に基づいて事務局より説明を行ったのち、質疑を行った。

議事

（1） アンケート実施結果について

【委員】

年配の方だけでなく、忙しい若い世代の方もごみの減量に熱心に取り組んでいると感じた。自分が1ヶ月間ごみの減量に取り組んだ中では、生ごみの減量が、ごみ全体の減量に有効だと感じた。

【委員】

事業者の立場としては、ごみ処理に関して課題が多いと思っており、業界としても取り組むべき時期に来ていると思う。製造で出た不良品を稲津町の最終処分場に持って行っていると思うが、何らかの形で利用したいというのは以前からずっと考えている。これは市も考えているところだと思う。

【委員】

様々な取組が行われていると思うが、地球温暖化対策ということからすると、とにかく自分達のでき

ることからやっていく必要があると考えている。別の委員からもお話があったが、行政としては、生ごみの減量に対して、どのような対策を考えているのか。

【事務局】

後ほど説明をさせていただく予定の資料3の施策・取組の中でも少し触れているが、排出されるごみの中で食品残渣（生ごみ）は全体の1割近くあり、水分を含んでいる上に量が多いため、焼却炉の負担にもなっている。水分を飛ばすことで、ごみを出す方もごみの量が減り、焼却する市としても負担が少なくなるため、生ごみ処理機の補助等、何らかの形で市民の皆様に活用いただける方法を今後検討していきたいと考えている。

（2） 基本計画の見直しについて

【委員】

産業廃棄物の減量化について、既に総量規制を行っているが更に強い規制が予定されているということか。

【事務局】

総量規制については現在、総量に対して受入は何%までとお願いをしているが、今後は基本的には陶磁器くずも含めた産業廃棄物は不燃物最終処理場で受け入れない方向で段階措置を取りながら進める想定である。現在の不燃物最終処分場の残容量は約2万m³であり、現行の体制で継続した場合であと16年しか使えない。次の最終処分場を選定して準備していく段階である。最終処分場の用地の選定から確保、それから地域との調整等、非常に長い時間がかかる。こういうことを念頭に置きながら最終処分の在り方はどうするのかと考えた中で、次の最終処分場を準備したとしても、現状の最終処分場に持ち込む産業廃棄物が一般廃棄物よりも多い状況になっている中で、同様に処理を続けていくのは難しいと判断している。このような状況を踏まえ、段階的な措置を取りながら最終処分場への産業廃棄物の持ち込みはできないような形をとっていききたいと考えている。その中でどのように産業廃棄物を事業者側で処分していただくのかということも、次の最終処分場の準備期間に検討していきたいと考えている。

【委員】

今、産業廃棄物（陶磁器くず）はどこで処分しているのか。

【委員】

今は稲津町にある学園台の近くの市の不燃物最終処分場で処分している。ただ全量ではなくて、一部は各社で再利用している。最終処分場で処分する不燃物を減らしていくことを考えなければいけないのは理解するが、一方で、市がこれまでやってこられたのは地場産業があったからということもあると思うので、不満に思うところもある。ごみをそのまま入れさせて欲しいということではなくて、今は残念ながら市場が非常に小さくなっているので、努力をしなくてもごみが減量できてしまっている。また、これ以上のごみの減量をしようとしても難しいため、行政と相談していきたい。このままでは、押し出されるかのように各社がお金を払って再利用等することになり、それは処分コストが跳ね上がるだけで、競争力の低下にもつながる。マニフェストをつけて処分をしてもいずれ地球のどこか、日本のどこかでごみが増えていくだけになってしまうので本当に考えなければいけないが、業界としては、今後予定される規制をそのまま受け入れることは難しい。

【事務局】

今、委員がおっしゃったように、行政としても再利用の取組は進めていく必要があると考えている。業界の方で進めているGL21というリサイクルをする、陶土を使った製品の開発の取組も推進していきたいと考えている。今年度、残念ながら産業廃棄物の事業者と調整がうまくできずに断念したが、リサイクル事業者に対してリサイクル施設を整備するための補助金を創設し、産業廃棄物（陶磁器くず）をリサイクルする取組みを推進できるよう取り組んだ。この取組はいったん白紙にはさせていただいたが、引き続きリサイクルに繋がっていく取組を続けていきたいと考えている。

もう1つ、3市（多治見市、土岐市、瑞浪市）で可燃物処理施設の広域化の検討を進めている。広域化の検討にあたっては、不燃物を含めたごみ処理全体で検討する必要があるのではないかという意見もあったが、不燃物の処分場については、広域化しないということになっている。いずれ各市で最終処分場について考える必要があり、今後最終処分場が確保できない可能性もあることから、何とか減量を進めていきたいと考えており、ご理解いただければと考えている。

【委員】

市民アンケート結果から、市民が安心して消費できるのは、ごみ処理を一生懸命やってくださっているからだということを感じた。一方でアンケートの回答者は、意識や意欲の高い方が中心ではないかと思う。市民の中で意識や関心に差があるのではないかと感じた。ごみ処理の問題は、短期的、中期的、長期的な視点で考える必要があり、もっと小さい子供のころから環境教育を行うのはどうか。子供だからわからないということではなく、わかりやすい示し方は必要だが、意外に子供の方が分別のことをよく知っていたり、小学校の児童でも興味のある子は詳しく調べている子もいる。子供のころからの教育は、後の市を守ることににもなると思う。

【委員】

子供の言葉は親にも影響が大きいので、有効だと感じた。

【委員】

廃棄物の運搬及び処理を行っている事業者の立場からすると、市が最終処分場を持っているのは珍しいことである。可児市は埋立場を持っているが、陶器専門の埋立場である。最終処分場を持っていない市町村は、民間の産業廃棄物を処理する処分場に委託して埋立てをしている。三重県にある200万m³の容量がある処分場は、他所の災害ごみの受入れがかなり多く、瑞浪市の10倍の容量があった埋立場が約8年で埋まった事例がある。災害が起きると市町村では処理ができないので民間の最終処分場にごみが埋め立てられ、容量が一気に埋まり、さらに埋立場を増やしているという状況である。こういった状況があるので、リサイクルは進んでいると言っても埋立場はなくならないと思う。容量を少しでも維持できるように取組を進めることが必要と考える。地場産業は大事だと思うが、一方他の事業者は全て産業廃棄物として処理していることを鑑みると、線引きは難しいと思う。地場産業をこれからも残すためには、行政との協力と、他の事業者にどのように納得してもらうかが大きな課題になってくると思う。

生ごみの処理については、最近は焼却するだけでなく水素に変換してエネルギー利用する事業を計画しているところもあり、生ごみをエネルギー化する未来もあると感じている。その他、プラスチックのリサイクルについて、今年から岐阜市がリサイクルをやり始め、可児市でも来年あたりから同様の事業をやるのではという話もある。周辺自治体が取組を始めると、取組みやすい環境が整ってくるのではないかなと思うので、情報を共有できればと思う。

【事務局】

先ほどお話しいただいた子供への教育の件について、毎年市内の小学4年生を対象に、クリーンセンターでごみの焼却の状況やごみの分別、資源化等について教育を行っている。

【委員】

ごみを捨てることに対して、市民も意識を高くしていく必要があると感じた。

【事務局】

委員からご意見いただいた廃プラスチックの取組みについて、市民アンケートでは可燃ごみのままでいいのではないかなという意見が結構あり、市民の意識を変えていくように検討していく必要があるということや、行政としても処理できる事業者をどれぐらい確保できるかといったことが課題である。法律的にも取組を進めていく必要があり、今後進めていく方向ではあるが、すぐにはできないと考えている。

生ごみ処理機の費用の助成については、市民アンケートで、制度を補助するということであれば使ってみたいという方が結構いるようなので、予算次第ではあるが、できれば進めていきたいと考えている。

【委員】

ごみ処理機については、今後検討して導入していくという方向になるのか。

【事務局】

かつて市ではコンポストも含めて補助を出していたが、一定程度市民に行き渡って、補助の目的を達成したということで終了した経緯がある。一方で、その後様々な生ごみ処理機が出てきており、市民の方も生ごみを減量するということに対して意識が高くなってきたこと、SDGs等の考え方が浸透してきたことを受けて、生ごみ処理機に対する要望が高まってきているという実態がある。今後、生ごみ処理機の購入に対して補助を行うことや、他の自治体ではリースに対して補助を出すという例もあることから、どのような形で補助を行うことが適切かということも含めて検討していきたいと考えている。

【委員】

マンション、アパート等の集合住宅にお住まいの方、特に自治会に入っていない方のごみの出し方に対して地域住民が非常に困っているということがある。行政はどのような対応が必要と考えているか。

【事務局】

クリーンセンターにもそういった苦情や問い合わせがよくある。市内に集積所は可燃ごみだけでも1,500箇所ぐらいあり、その管理については、そこに出される方々に維持管理をしていただいております。そこに出たごみはまずはそれぞれで解決をしていただくことを優先している。市としては、ホームページ、広報での周知や、ごみ出し便利帳を市内全世帯に毎年配るなどの取組を行っており、粘り強く周知をしていながらルールを守っていただけるように努めている。

【委員】

ルールの周知、徹底は必要と考える。引き続き取り組んでいただきたい。

【委員】

ごみ袋の費用に処理費も含まれているので、どこの集積場に出してもよいのか。

【事務局】

直接クリーンセンターへ持ち込みいただければ処理するが、ごみを出す集積所は地域ごとに決まっている。

【委員】

ごみの出し方によってコミュニティの分断が起こったりするので、大きな問題を含んでいると感じた。分断はしたくないし、これから外国人も受け入れていかなないと人手不足は解消せず、仲良くやっていきたい。そのためには啓蒙活動等を続けていく必要があると思う。

【委員】

マンションの方達は集積所の掃除等には関わらない。またそういう方達は広報を受け取っていないといったこともある。そういう方達への対応をどうするか。

【委員】

デリケートな問題であり、アパートを経営しているオーナーさんにもしっかり対応して欲しい。

【事務局】

市の対応としては、外国人の方に向けては英語やタガログ語、中国語等でラミネートした掲示物を集積所の管理者に渡して周知していただいたり、アパートだと管理会社に住民の方へのごみ出しのルールの周知を何度も連絡させていただきながら、ごみを適切に出していただけるよう取り組んでいる。住まれる方の意識の違いで難しいところはある。

【委員】

関市や多治見市の新築の集合住宅のごみは市では処理をせず、事業者のごみとして扱っており、廃棄物処理・運搬業者に直接連絡が来て、事業者のごみとして回収している。分別に関しては管理会社を通して入居者の方に説明してもらっている。昔からある集合住宅は市で回収している。

海外の方に多いが、ごみがぐちゃぐちゃになっている集積所があるので、管理会社から廃棄物処理・運搬業者が直接連絡をもらい清掃費用をもらって片付けることもある。

【事務局】

市内でも事業者にごみ処理を委託しているアパートもある。管理会社が行っているところもある。ごみを出す時間については、市の場合は８時半までに可燃、不燃、資源も出してくださいとお願いしている。

【委員】

市の方がアパートに直接、ごみの出し方について指導を行っているのか。

【事務局】

苦情が来た際に、近隣の方が困っているのを分別して出してくださいとお願いしている。ルールが守られていないと回収できない。回収できないごみを回収してしまうと、どのようなごみでも回収してもらえんと思われてしまうので、理由を書いた紙を貼って置いて行っている。

(3) 取組内容の見直しについて

【委員】

私は小学校のPTA役員をしており、費用対効果の面から、年間２回行っている資源回収を本当にやるべきなのかという話が出る。資源でも、お金になるものとそうでないものがある。小学校への啓蒙といたったことを考えると、実施していく必要があると思うが、コストとの兼ね合いがある。助成金等による補助等があるとよい。

【事務局】

資源回収についてはキロ当たり４．５円の補助金を、回収した学校に対して出している。

その他

○事務局より、第３回の審議会は１１月２９日金曜日の午後に開催予定である旨の説明あり。また、パブリックコメント実施直前の会議であり、計画案を固める検討を行う内容となるため、事務局より委員の方に対し、可能な限りご出席いただきたい旨の説明があった。

○鈴木理事兼経済部長よりお礼の挨拶

以上